

# 富山大学 学報



(題字 大井信一 学長)

## 第282号

### 目 次

学 長 告 辞..... 2	外国政府等からの留学生等の募集のお知らせ..... 9
昭和62年度富山大学入学式 学長告辞..... 2	財団等による研究助成関係の募集のお知らせ..... 13
関 係 法 令..... 3	化学教育賞受賞..... 15
学 内 規 則..... 3	昭和62年度 科学研究費補助金(海外学術研究)
富山大学事務分掌内規の一部改正..... 3	の内定..... 15
富山大学文書処理規則の一部改正..... 4	人 事 異 動..... 16
富山大学受託研究員規則の一部改正..... 4	学 内 諸 報..... 16
富山大学私学研修員, 専修学校研修員及び公立	名誉教授の称号授与..... 16
大学研修員規則の一部改正..... 5	教育学部附属学校共用棟新営工事..... 19
富山大学学則の一部改正..... 5	シリーズ「富山大学, あの日あの頃」(12)
富山大学大学院学則の一部改正..... 5	その1..... 21
富山大学放射性同位元素総合実験室規則の一部	職 員 消 息..... 22
改正..... 7	主 要 行 事..... 24
諸 会 議..... 8	資 料..... 27
学 事..... 8	昭和62年度入学者数..... 27
昭和62年度富山大学(学部, 専攻科, 大学院研	昭和62年度学部等学生数..... 29
究科)入学式の挙行..... 8	昭和62年度聴講生, 研究生数..... 30

## 昭和62年度富山大学入学式学長告辞

ただいま入学を許可されました1,495名にのぼる諸君は、本学の各学部、大学院および専攻科へめでたく入学された方々であり、本学の教職員一同、心から祝福を申しあげると共に歓迎の意を表します。

本年度は、A、Bグループ分けによる複数受験が行われた初年度であります。受験生諸君も大学側もその対応にいろいろ苦勞したところあります。然しながら平均倍率5倍以上と過去最高の競争率となり、諸君にとっては激戦であったと思います。難関を突破してめでたく入学された諸君や御家族の喜びはさぞかしと存じます。選ばれた者の幸せと誇りを自覚すると共に、本日の感激を忘れる事なく、これからの四年間充実した悔のない大学生活を送って欲しいと思います。

今年は戦後六三制の新教育制度が始まって40年になります。昭和22年4月に新制中学が発足し160万人の中学一年生を迎えたのでありますが6年後大学、短大に進学したのは11万人で浪人を含めこの年の高等教育進学率は9%でありました。ところが昭和61年春には191万人が中学を卒業し、一方、大学、短大には64万人、専門学校にも18万人が進学し、このほかに浪人も多く、この年の高等教育への進学率は45.9%にも達しており、この40年間に高学歴化は大きく進展したことになり、大学の大衆化はもはや動かすことのできない現実だと言うことがよくわかると思います。とくに近年急速に学歴がもつ効用、価値への信仰が高まってきております。大学の大衆化で、かえって必要条件として学歴が重要視されることになったとも考えられましょう。すなわち、親や家族にとってみれば、たとえ学歴が職業上必ずしも特に大きな経済的利益をもたらさなくとも、将来の社会生活における「保険」として、自分の子弟にひたすら高い学歴をつけさせようとしているからにはほかなりません。さらに高学歴化の最大の受益者は国や社会であり、高学歴化は労働力の質を高かめればかりでなく、有効需要をふくらませ、さらに社会の安定にも大きく役立っているわけあります。

然しながら一方では、学歴社会の弊害も近年やかましく言われております。個人に対する評価が「何をどれだけ学んだか」と言うことよりも「いつ、どこで学んだか」のほうが重視され、教育・学習歴が必ずしも適正に評価されないきらいがあり、むしろ人生の初期に形成的な学歴をつける現状から「何をどれだけ学ん

だか」を評価する生涯学習社会の建設へ移行すべきだと言われております。然しながら、産業構造が高度化し知的労働のニーズに適合する高学歴層の需要が増大している現状を考えると、18才人口の大学教育の重要性は変らないばかりか、生涯学習社会への入口として自主的学習の必要性を体得させるうえでも大きな役割を果すものと確信しております。

ところで、近来大学の大衆化とともに、学生の質の低下や大学のレジャーランド化など大学に対する風当りは強いものがあります。果して学生の質がそれほど低下しているのでしょうか。優秀な素質を持ちながらかつては経済的理由で進学を断念せざるを得なかったような人材は今日ではいろいろな救済制度や奨学制度によってほとんど大学に進んでおり、また必ずしも優秀とは言えないその他の学生にしても、その大部分が「やる気」さえ出せば充分やっつけられる潜在的能力を持っていると思われまます。然しながら、偏差値偏重の受験体制の中で、あらゆる面で教師によって手取り足取りされる勉強にならされ、自分で考え、表現し、行動する訓練をほとんど受けていないため、大学に入っても自分で考え、積極的に学習に取り組む者は少なく、大部分の学生は高等学校までの路線を継続して、教えられたことだけをやる受身の勉強に終始するのが精いっぱいようであります。個性や希望を無視した進路指導の結果、自分の志望とは違った学部や学科に入学した者が、大学生生活の目標を見失ない「やる気」を失いつゝある者もかなりおります。それらの中には、目標を新たにつかもうと苦悩する者、すっかり割り切ってレジャーや大学外の活動に専心する者もおります。彼等の中にも優秀な潜在能力を持つ者が決して少なくないのであります。それらの能力を出来るかぎり引き出し、専門知識を習得させ、種々の状況に直面して自分で考え、判断し、行動しうる能力を育成することが大学の目標であります。たんに学生に学歴を賦与する選別装置としてではなく、実質的な学生の教育を通じて社会に寄与することが大学の社会における役割の大きな部分だと考えております。諸君も大学に入学した後、目標を失った大学生生活を送らないためにも、自分がほんとうに勉強したいのは何なのかをよく考えなくてはなりません。充実した大学生生活の結果得た学歴にこそ、本当の価値があるのではないのでしょうか。

近来、大学の「輪切り受験」によって、学生が均質化し、次第に大学の個性や魅力が失われて来たと言われています。地域社会との密接な連携や交流によって、大学の活性化をはかり、特色ある研究や教育活動によって、富山大学の独自性や個性を打出し、他大学にない魅力をつくりたいと念願しています。大学のステータスを高めるため、教職員、学生一丸となって頑張りましょう。

いよいよ今日から大学生活が始まるわけですが、大

学生生活は学業にはげむと共に、若い諸君が人生を見つめる大切な場であります。活発な課外活動を通じて友人と心を開く場であります。諸君の中には受験勉強にとりつかれて、中学・高校時代に果しておくべき精神発達段階の課題を残している人も少なくないと思います。スポーツやサークル活動によって、体を鍛え、心を開き、先輩や同輩との交流によって自己の人格形成につとめ、充実した大学生活を送ることを期待します。これをもって私のお祝いの言葉と致します。

## 関係法令

### 政 令

- 住宅金融公庫法施行令等の一部を改正する政令（129） 4・24
- （注）住宅金融公庫の貸付に係る利率を引き下げる  
こととした。

### 規 則

- 人事院規則9-1（非常勤職員の給与）の一部を改正する人事院規則（人事院9-1-3） 4・1
- 人事院規則9-8（初任給、昇格、昇給等の基準）の一部を改正する人事院規則（人事院9-8-7） 4・1

### 告 示

- 国際電子郵便の取扱いに関する省令第4条の国際電子郵便の取扱いを行う国及び第6条第1項の名あて国における国際電子郵便物の配達方法並びに第6条第1項の郵便局を定める等の件の一部を改正する件 4・17

### 官庁報告

- 昭和62年度国家公務員採用I種試験公告（人事院） 4・15

## 学 内 規 則

### 富山大学事務分掌内規の一部改正

富山大学事務分掌内規の一部を改正する内規を次のとおり制定する。

昭和62年4月1日

富山大学事務局長 西村 清

#### 富山大学事務分掌内規の一部を改正する内規

富山大学事務分掌内規（昭和61年5月28日制定）の

一部を次のように改正する。

第11条中「及び学務係」を「教務係及び学生係」に改め、学務係の項を次のように改める。

#### 教 務 係

- (1) 学生のオリエンテーションに関すること。
- (2) 学生の賞罰に関すること。
- (3) 教育課程及び履修に関すること。
- (4) 授業時間の配当に関すること。
- (5) 休講及び補講に関すること。
- (6) 教室の割当整備に関すること。

- (7) 入学及び卒業に関すること。
- (8) 休学及び退学等学籍に関すること。
- (9) 学生及び卒業生の進学に関すること。
- (10) 入学者の選抜に関すること。
- (11) 指導要録に関すること。
- (12) 成績評価、課程の修了及び卒業の認定に関するこ  
と。
- (13) 出欠調査に関すること。
- (14) 教育実習に関すること。
- (15) 聴講生、研究生及び外国人留学生に関すること。
- (16) 学生の成績証明に関すること。
- (17) 所掌事務の調査及び統計に関すること。

## 学 生 係

- (1) 学生及び学生団体の補導に関すること。
- (2) 学生の課外教育並びに課外活動に関すること。
- (3) 学生の集会に関すること。
- (4) 学生の掲示、印刷物等に関すること。
- (5) 学生の願及び届に関すること。
- (6) 学生の郵便物、遺失物等に関すること。
- (7) 学外実習及び見学旅行に関すること。
- (8) 学生の経済相談に関すること。
- (9) 日本育英会及び地方公共団体等の奨学生に関する  
こと。
- (10) 入学料の免除及び授業料の免除・徴収猶予に関する  
こと。
- (11) 学生及び卒業生の就職に関すること。
- (12) 学生の諸証明（成績証明を除く。）に関すること。
- (13) 学生の生活調査に関すること。
- (14) 学生の保健及び衛生管理に関すること。
- (15) 学生の健康診断に関すること。
- (16) 所掌事務の調査及び統計に関すること。

## 附 則

- 1 この内規は、昭和62年4月1日から実施する。
- 2 富山大学経営短期大学部が存続する間、その事務  
は、経済学部事務部が処理する。

## ▶富山大学事務分掌内規の改正理由

- 1 経営短期大学部の事務組織の廃止に伴い、その事  
務を経済学部で行うため、規定を整備する。
- 2 経済学部の昼夜間コースの開設に伴い、学務係を  
教務係及び学生係の2係に改組するため、関係条文  
を改める。

## 富山大学文書処理規則の一部改正

富山大学文書処理規則の一部を改正する規則を次の  
とおり制定する。

昭和62年4月1日

富山大学長 大井 信一

## 富山大学文書処理規則の一部を改正する規則

富山大学文書処理規則（昭和24年12月2日制定）の  
一部を次のように改正する。

## 別表中

「富大経学第 号 経済学部学務係所管のもの」を  
「富大経教第 号 経済学部教務係所管のもの」  
富大経学第 号 経済学部学生係所管のもの」  
に  
改める。

## 附 則

この規則は、昭和62年4月1日から施行する。

## ▶富山大学文書処理規則の改正理由

経済学部の係の改組に伴い、所要事項を改める。

## 富山大学受託研究員規則の一部改正

富山大学受託研究員規則の一部を改正する規則を次  
のとおり制定する。

昭和62年4月10日

富山大学長 大井 信一

## 富山大学受託研究員規則の一部を改正する規則

富山大学受託研究員規則（昭和59年2月17日制定）  
の一部を次のように改正する。

第6条中「受託研究員の研究料について（文部省大  
学局長通知）」を「受託研究員の研究料について（文  
部省学術国際局長通知）」に改める。

## 附 則

この規則は、昭和62年4月10日から施行し、昭和62  
年4月1日から適用する。

## ▶富山大学受託研究員規則の改正理由

受託研究員の研究料について（大学局長通知、昭和

58年4月1日付け文大技第28号)の廃止に伴い、所要事項を改める。

### 富山大学私学研修員、専修学校研修員及び公立大学研修員規則の一部改正

富山大学私学研修員、専修学校研修員及び公立大学研修員規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

昭和62年4月10日

富山大学長 大井 信一

#### 富山大学私学研修員、専修学校研修員及び公立大学研修員規則の一部を改正する規則

富山大学私学研修員、専修学校研修員及び公立大学研修員規則(昭和59年2月17日制定)の一部を次のように改正する。

第6条中「私学研修員、専修学校研修員及び公立大学研修員の研究料等について(文部省大学局長通知)」を「私学研修員、専修学校研修員及び公立大学研修員の研究料について(文部省学術国際局長通知)」に改める。

#### 附 則

この規則は、昭和62年4月10日から施行し、昭和62年4月1日から適用する。

#### ▶富山大学私学研修員、専修学校研修員及び公立大学研修員規則の改正理由

私学研修員、専修学校研修員及び公立大学研修員の研究料等について(大学局長通知、昭和58年4月1日付け文大高第11号)の廃止に伴い、所要事項を改める。

### 富山大学学則の一部改正

富山大学学則の一部を改正する学則を次のとおり制定する。

昭和62年4月17日

富山大学長 大井 信一

#### 富山大学学則の一部を改正する学則

富山大学学則(昭和59年3月12日制定)の一部を次

のように改正する。

別表第4中「6,200円」を「6,800円」に、「45,000円」を「54,000円」に、「15,000円」を「18,000円」に改める。

#### 附 則

- 1 この学則は、昭和62年4月17日から施行する。
- 2 昭和62年度内の入学に係る研究生、聴講生の検定料及び入学料の額は、なお従前の例による。

#### ▶富山大学学則の改正理由

国立の学校における授業料等の改定について(昭和62年2月10日付け文高学第79号文部省高等教育局長通知)に基づき、富山大学における研究生、聴講生に係る検定料及び入学料を改定するため、所要事項を改める。

### 富山大学大学院学則の一部改正

富山大学大学院学則の一部を改正する学則を次のとおり制定する。

昭和62年4月17日

富山大学長 大井 信一

#### 富山大学大学院学則の一部を改正する学則

富山大学大学院学則(昭和53年4月1日制定)の一部を次のように改正する。

第1条中「定める」を「定めるものとする」に改める。

第16条第1項中「他の大学院」を「他の大学の大学院(外国の大学の大学院を含む。以下同じ。)」に改める。

第23条第1項中「教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則」を「教育職員免許法(昭和24年法律第147号。以下「免許法」という。)及び教育職員免許法施行規則(昭和29年文部省令第26号。以下「施行規則」という。)」に改め、同条第2項中「教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則」を「免許法及び施行規則」に改める。

「第8章 入学、休学、転学及び退学」を「第8章 入学、退学、転学、休学、留学及び除籍」に改める。

第26条中「書類を」を「書類に検定料を添えて」に改める。

第29条を削り、第28条を第29条とし、第27条の次に次の1条を加える。

(入学手続及び入学許可)

第28条 学長は、前条に定める選考の結果合格し、所定の期日までに入学料及び所定の書類を添えて、入学手続を行った者(入学料の免除を申請している者を含む。)に入学を許可する。

第30条の見出しを「(退学及び転学)」に改め、同条中「休学、転学及び退学」を「退学及び転学」に改める。

第39条中「本学学則」を「本学学則の規定」に改め、同条を第51条とし、第38条を第50条とする。

「第13章 補 則」を「第14章 補 則」に改める。

第37条を第49条とし、第36条を第48条とし、第35条を第47条とする。

「第12章 運営組織」を「第13章 運営組織」に改める。

第34条を第46条とする。

「第11章 教員組織」を「第12章 教員組織」に改める。

第33条の見出しを「(表彰及び懲戒)」に改め、同条中「懲戒」を「表彰及び懲戒」に改め、同条を第5条とする。

「第10章 懲 戒」を「第11章 賞罰」に改める。

第32条の見出しを「(入学料、授業料及び寄宿料の免除等)」に改め、同条中「授業料又は入学料の免除及び徴収猶予等の扱い」を「入学料、授業料及び寄宿料の免除・徴収猶予の取扱い」に改め、同条を42条とし、同条の次に次の2条を加える。

(研究生、聴講生及び特別聴講学生の授業料等)

第43条 研究生、聴講生及び特別聴講学生の検定料、入学料及び授業料の額については、本学学則の規定を準用する。

(納付した授業料等)

第44条 納付した検定料、入学料、授業料及び寄宿料は返付しない。

第31条の見出しを「(授業料等の額及び徴収方法)」に改め、同条中「授業料、入学料及び検定料」を「検定料、入学料、授業料及び寄宿料」に改め、同条を第41条とする。

「第9章 授業料、入学料及び検定料」を「第10章 検定料、入学料、授業料及び寄宿料」に改める。

第8章の次に次の1章を加える。

第9章 研究生、聴講生、特別聴講学生及び外

国人留学生

(研究生)

第36条 大学院の専攻分野に関する特定の事項について研究することを志願する者があるときは、教育研究に支障のない場合に限り、当該研究科において選考の上、研究生として入学を許可することができる。

(聴講生)

第37条 大学院において、特定の授業科目を聴講しようとする者があるときは、教育に支障のない場合に限り、当該研究科において選考の上、聴講生として入学を許可することができる。

(特別聴講学生)

第38条 他の大学の大学院の学生で、本学大学院の授業科目を履修しようとする者があるときは、当該大学院との協議に基づき、特別聴講学生として入学を許可することができる。

(外国人留学生)

第39条 外国人で、大学院において教育を受ける目的をもって入国し、本学大学院に入学を志願する者があるときは、選考の上、外国人留学生として入学を許可することができる。

2 外国人留学生は、定員外とする。

(研究生等に関するその他の事項)

第40条 研究生、聴講生、特別聴講学生及び外国人留学生に関し必要な事項は、別に定める。

第30条の次に次の5条を加える。

(休 学)

第31条 疾病その他特別の理由により3月以上修学することができない者は、当該研究科長を経て、学長の許可を受けて休学することができる。ただし、疾病の場合には、医師の診断書を添付しなければならない。

2 疾病のため修学することが適当でないと認められる者については、当該研究科委員会の議を経て、学長は休学を命ずることができる。

(休学期間)

第32条 引き続き休学できる期間は、1年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、1年を限度として当該期間の延長を認めることができる。

2 休学期間は、通算して2年を超えることができない。

3 休学期間は、第10条及び第21条に定める在学期間に算入しない。

(復 学)

第33条 休学期間中にその理由が消滅し、復学しようとする者は、当該研究科長を経て、学長の許可を受けなければならない。

(留 学)

第34条 外国の大学院等に留学を希望する者は、当該研究科長を経て、学長の許可を受けなければならない。

2 留学した期間は、第21条に定める在学期間に算入することができる。

(除 籍)

第35条 次の各号の一に該当する者は、当該研究科委員会の議を経て、学長が除籍する。

- (1) 入学料の免除を願い出て許可されなかった者又は入学料の半額を免除された者で、納付すべき入学料を所定の期日までに納付しない者
- (2) 授業料の納付を怠り、督促してもなお納付しない者
- (3) 第10条に定める在学期間を超えた者
- (4) 第32条第1項及び第2項に定める休学期間を超えてなお修学できない者
- (5) 長期間にわたり行方不明の者

#### 附 則

この学則は、昭和62年4月17日から施行し、昭和62年4月1日から適用する。

#### ▶ 富山大学大学院学則の改正理由

研究生、聴講生、特別聴講学生及び外国人留学生関係の規定化並びに字句の整理等をするため、所要事項を改める。

### 富山大学放射性同位元素総合実験室規則の一部改正

富山大学放射性同位元素総合実験室規則の一部を改

正する規則を次のとおり制定する。

昭和62年4月17日

富山大学長 大井 信一

#### 富山大学放射性同位元素総合実験室規則の一部を改正する規則

富山大学放射性同位元素総合実験室規則（昭和40年4月22日制定）の一部を次のように改正する。

第1条中「富山大学」を「富山大学（以下「本学」という。）」に改める。

第2条第3項中「前項」を「第2項及び第3項」に、「2年とする。ただし、再任を妨げない」を「2年とし、再任を妨げない」に改め、同項を同条第4項とする。

第2条中第2項を削り、第1項の次に次の2項を加える。

2 実験室長（以下「室長」という。）は、本学の教授又は助教授のうちから放射性同位元素委員会の指名に基づき、学長が命ずる。

3 放射線取扱主任者（以下「取扱主任者」という。）及びその代理者（以下「代理者」という。）は、第1種放射線取扱主任者の資格を有する職員のうちから、放射性同位元素委員会の指名に基づき、学長が命ずる。

第9条中「委員長」を「議長」に改める。

#### 附 則

1 この規則は、昭和62年4月17日から施行する。

2 この規則の施行の日において、室長、取扱主任者及び代理者である者の任期については、改正前の第2条第3項の規定により、その者が室長、取扱主任者及び代理者となった日から起算する。

▶ 富山大学放射性同位元素総合実験室規則の改正理由  
富山大学放射性同位元素総合実験室の効率的運営を図ること及び字句を整理するため、所要事項を改める。

◎ 退庁、退室の際には、戸締りの徹底・電気、ガスの消し忘れ、タバコの吸殻の後始末に十分注意し、盗難の防止・火災の予防に心がけましょう!!

◎ 電気、ガス、水の省エネ・省資源に協力しましょう!!



学長告辞，部局長紹介のあと，本学合唱団の合唱及び  
フィルハーモニー管弦楽団による演奏がアトラクショ  
ンとして行われ成功裡に終了しました。



### 外国政府等からの留学生等の募集のお知らせ

毎年，外国の政府・研究機関・団体等から留学生・研究員等の募集が数多く行われ本学にも多くの通知が入っていますが，参考までに昭和61年度に通知のあったものをまとめてみました。

なお，これらの募集通知については，毎年一定しているものでなく，その年度によって若干の変更あるいは募集しないものもあり，またこの外にも各種財団等から募集がある場合もありますので，この点お含みおきの上参考にしてください。

募集要項等の詳細は，各部署の庶務係にお問い合わせ下さい。

関係国	名 称	募集人員	専 攻 分 野	応 募 資 格 共通事項 ・日本国籍を有する者 ・十分な外国語の能力を有する者 ・心身共に健全な者	待 遇	関 係 機 関 (募集通知時期)
アジア諸国 インド ネパール パキスタン スリランカ インドネシア 大韓民国 フィリピン タイ マレーシア シンガポール モンゴル トルコ エジプト 中国 ビルマ 香港 バブア・ニューギニア	アジア諸国等派遣留学生	9名程度	留学対象国の言語，歴史，文化又は社会の分野（ビルマは言語の分野のみ）	・大学院博士課程若しくは修士課程に在学している者又は大学を卒業後研究に従事している者 ・35歳未満の者	・期間 2年間 ・奨学金 月額100,000円 ・一時金 年額30,000円 ・往復航空賃支給	文部省学術国際局留学生課（1月）
アメリカ合衆国	N I H 奨励研究員	6名	医学，生物学，生化学，生理学，歯学，薬学及び獣医学等	・博士号取得者 ・35歳以下の者	・期間 1年間 ・滞在費 年額18,000～22,000ドル ・往復旅費支給	日本学術会議（3月）
アメリカ合衆国	大学院留学プログラム		人文科学，社会科学，自然科学，応用科学（米国の研究，日本の研究，太平洋地域の政治・経済関係，現代技術社会の諸問題，教育の国際化の領域が望ましい。	大学院在籍の学生，博士号を有さない若手大学教員を対象とする。 ・大学卒業生 ・34歳以下の者優先	・期間 1年間 ・往復旅費，生活費，授業料，家賃等支給	日米教育委員会（2月）

イト ト 奨 学 生	若手研究員プログラム		同 上	4年制大学の専任の助教授、講師又は助手を対象とする。 ・3ヶ月以上継続した渡米経験のない者	・期間 9ヶ月間 ・往復旅費、生活費、家賃等支給	
	上級研究員プログラム		人文・社会科学分野	4年制大学の専任と教授又は助教授を対象とする。 ・米国人との共同研究を特に奨励 ・55歳以下の者優先	・期間3～9ヶ月間 ・往復旅費、生活費、家賃等支給	
	大学教員を対象とした旅費支給奨学金		人文科学、社会科学、自然科学、応用科学	・4年制大学の専任教員で米国高等教育研究機関ら招へいを受けている者 ・55歳以下の者優先	・往復旅費支給	
イスラエル	イスラエル政府奨学金留学生	若干名	制限なし	・大学卒業者（含む見込者） ・35歳未満の者	・期間 9ヶ月間 ・奨学金 月額 210ドル ・授業料免除	(財)日本国際教育協会留学情報センター 駐日イスラエル大使館 (12月)
イタリア	イタリア政府奨学金留学生	17名	人文科学、社会科学、自然科学、芸術（美術、音楽等）	・大学卒業者	・期間1学年間（場合によっては2学年間） ・滞在費 月額 600,000リラ ・往復航空券支給 ・健康傷害保険料支給	(財)日本国際教育協会留学情報センター イタリア文化会館 (2月)
インド	インド政府奨学金留学生	6名	人文科学、社会科学、自然科学、芸術	・大学卒業者（含む見込者）	・期間 2年間 ・滞在費 月額 600～750ルピー ・書籍代支給 ・授業料、受験料等納付金免除	(財)日本国際教育協会留学情報センター 駐日インド大使館 (1月)
オーストリア	オーストリア政府奨学金留学生	4名	人文科学、社会科学、自然科学	・大学の学部2年次修了以上の学歴を有する者 ・20歳以上35歳以下の者	・期間 9ヶ月間 ・奨学金 月額 5,700～7,200オーストリアリング ・渡航費一部補助	(財)日本国際教育協会留学情報センター 駐日オーストリア大使館 (1月)
カナダ	カナダ大学院留学	約8名	・人文・社会科学におけるカナダ研究及びカナダ比較研究 ・カナダの音楽、美術、工芸、建築、彫刻、デザイン及び芸術理論 ・自然科学と工学の諸分野でカナダなければ研究できないもの	学位奨学金 カナダの大学院の修士又は博士課程で研究を希望する35歳までの学士号又は修士号の取得者（取得予定者を含む。） 研究奨学金 大学院の修士又は博士課程に在籍する35歳までの者で、課程修了のためカナダの大学院へ留学を希望する者 研究資金 博士号又は同等の学問的地位の取得者 芸術家の場合は長年一流の芸術家として活動が続いている者	・期間 1年間 ・往復航空賃、支度金、授業料支給 ・毎月 600ドルの経費と生活費、医療保険費支給 ・期間 8ヶ月～1年間 ・往復航空賃、支度金、授業料支給 ・毎月 600ドルの経費と生活費、医療保険費支給 ・期間 4ヶ月～1年間 ・往復航空賃、支度金支給 ・毎月 1,200ドルの研究費と生活費、医療保険費支給	カナダ大使館 (6月)
スイス	スイス政府奨学金留学生	3名	人文科学、社会科学、自然科学、芸術	・大学院在学者又は大学卒業後大学で教育・研究に従事している者 ・35歳未満の者	・期間 9ヶ月間 ・奨学金 月額 1,050～1,250スイスフラン ・授業料免除 ・疾病、傷害保険付保 ・帰国旅費支給	(財)日本国際教育協会留学情報センター 駐日スイス大使館 (10月)
スウェーデン	スウェーデン政府奨学金留学生	1名	人文科学、社会科学、自然科学	・大学卒業者（含む見込者）	・期間 8ヶ月間 ・奨学金 月額 3,750スウェーデンクローネ ・登録料免除 ・傷害保険付保 ・渡航費一部支給	(財)日本国際教育協会留学情報センター 駐日スウェーデン大使館 (12月)

	Swedish Institute 奨学金留学生		スウェーデン以外の国においては、十分な研究ができない分野	・年齢制限なし	・期間 3～4ヶ月間から3学年以内 ・奨学金 月額 3,755スウェーデンクローネ	Swedish Institute (9月)
タイ	タイ政府奨学金留学生	フェローシップ 6名 スカラシップ 4名	人文科学、社会科学、自然科学、美術	・フェローシップ 大学卒業者(含む見込者) ・スカラシップ 高校卒業者(含む見込者)で30歳を超えない者	・フェローシップ 期間 1年間 給費 年額 40,000バーツ ・スカラシップ 期間 1～6年間 給費 年額 20,000バーツ	(財)日本国際教育協会留学情報センター 駐日タイ大使館 (1月)
大韓民国	大韓民国府奨学金留学生	3名	人文科学、社会科学、自然科学	・大学卒業者 ・35歳未満の者 ・大韓民国政府奨学金を受けたことのない者 ・単身渡航でき、韓国に配偶者がいない	・期間 2～3年間 ・奨学金 月額 300,000ウォン ・傷害保険料 ・入学料、授業料免除 ・往復航空券支給	(財)日本国際教育協会留学情報センター (4月)
デンマーク	デンマーク政府奨学金留学生	6名	人文科学、社会科学、自然科学、芸術	・大学3年次以上在学者及び卒業者又は見込みの者	・期間 8ヶ月間 ・奨学金・月込み 3,505～4,400デンマーククローネ ・帰国旅費一部支給 ・健康保険付保	(財)日本国際教育協会留学情報センター 駐日デンマーク大使館 (11月)
ドイツ連邦共和国	ドイツ学術交流会(DAAD)奨学金留学生	35名	独語、独文学、人文科学、社会科学、自然科学、芸術(音楽、美術)	・昭和29年10月2日以降に出生の者 ・人文・社会科学、独語、独文学専攻 原則として修士課程在学者又はそれ以上の学歴を有する者 ・自然科学専攻 修士課程修者(含む見込者)ただし、医学・歯学専攻は学部卒業者 ・音楽実技専攻 学部卒業者(含む見込者)	・期間 1年間 ・給費 月額 870～980ドイツマルク ・家族手当、支度料、専門書籍代、往復旅費支給 ・入学料、授業料、実験費等免除 ・傷害及び個人賠償責任保険付保	(財)日本国際教育協会留学情報センター DAAD東京事務所 (8月)
	ドイツ語担当教員のドイツ派遣	15名	ドイツ語教育	・国立の大学等においてドイツ語教育を担当する者 ・30歳以上50歳以下の者 ・最近3年以内にドイツにおいて研究に従事又は研修を受けたことのない者(私費を除く。)	・期間 約3ヶ月間 ・滞在費及び研修経費支給 ・往復航空賃支給	文部省学術国際局 国際教育文化課 (12月)
トルコ	トルコ政府奨学金留学生	7名	トルコ語、トルコ文学、歴史、地理、美術、農学	・大学卒業者 ・40歳以下の者	・期間 8ヶ月間 ・奨学金 月額 75,000リラ	(財)日本国際教育協会留学情報センター 駐日トルコ大使館 (3月)
ノルウェー	ノルウェー政府奨学金留学生	1名	ノルウェー語、ノルウェー文学、歴史、法律、民俗学、博物学(植物学、動物学、地学)、地理学、経済学	・20歳以上35歳以下の者 ・大学3年次以上	・期間 9ヶ月間 ・滞在費 月額 3,900ノルウェークローネ ・授業料免除 ・着後手当、書籍手当支給	(財)日本国際教育協会留学情報センター 駐日ノルウェー大使館 (1月)
パキスタン	パキスタン政府奨学金留学生	10名	人文科学、社会科学、自然科学及び芸術(美術、デザイン)	・大学卒業者	・期間 1学年間 ・生活費、書籍代、研究旅費支給 ・授業料免除 ・往復旅費支給	(財)日本国際教育協会留学情報センター (11月)
ハンガリー	ハンガリー政府奨学金留学生	4名	人文科学、社会科学、自然科学、芸術	・大学卒業者 ・35歳未満の者	・期間 18ヶ月間 ・奨学金 月額 4,000フォリント ・宿舍提供 ・医療費無料 ・国内研究旅費支給	(財)日本国際教育協会留学情報センター 駐日ハンガリー大使館 (8月)
フィンランド	フィンランド政 一般奨学金	2名	人文科学、社会科学、自然、芸術	・大学卒業者(含む見込者)	・期間 4～9ヶ月間 ・奨学金 月額 2,200マルカ ・授業料免除	(財)日本国際教育協会留学情報センター 駐日フィンランド大使館

	府奨学金留学生	フィンランド語、フィンランド文化研究のための特別奨学金		フィンランド語、フィンランドの歴史、考古学、民族学、文学、政治等フィンランドの文化に関する研究 学	同上 ・大学院レベルの学生が優先	・期間 3～9ヶ月間 ・奨学金 月額 2,200マルカ	(2月)
フランス	フランス政府給費留学生			文学、人文・社会科学、自然科学、医学、農学、工学、海洋学、建築と都市工学、芸術	・大学卒業者(含む見込者)芸術専攻者は学歴問わない。 ・第一部門(文学、語学) 30歳未満、ただし、現在フランス語の教職にあるか将来その予定であり、外国語としてのフランス語教育法を学ぼうとする者は、40歳未満 ・第二部門(人文・社会科学)及び第三部門(自然科学、医学、農学、工学、海洋学、建築と都市工学)の者は40歳未満 ・音楽(演奏)関係者受験者は、フランス大使館文化部に年齢制限規定を問合わせる事。その他の芸術部門の者は、33歳未満	・期間 9ヶ月間 ・給費 月額 2,400～3,200フラン ・帰国旅費支給 ・授業料支給	駐日フランス大使館 (6月)
ベルギー	ベルギー政府奨学金留学生	4名程度		哲学、歴史学、文献学、社会学、心理学、教育学、法学、政治学、経済学、数学、物理学、化学、地質学、地理学、生物学、動物学、植物学、医学、獣医学、薬学、工学、農学、芸術	・大学卒業者	・期間 1学年間 ・奨学金 月額 18,000ベルギーフラン ・帰国旅費支給 ・授 養等支給 ・図書教材費支給 ・国内研究用 鑑無料切符交付 ・傷害疾病保険付保	(財)日本国際教育協会留学情報センター 駐日ベルギー大使館 (3月)
ポーランド	ポーランド政府奨学金留学生	4名		人文・自然科学	・大学卒業者(含む見込者) ・35歳未満の者	・期間 2年間 ・奨学金 月額 11,300ズロチ ・書籍代支給	(財)日本国際教育協会留学情報センター (11月)
	ポランド・フェロシップ	10名		天文学、物理学、数学、哲学、社会学、経済学、科学史	・大学卒業者	・期間 12ヶ月間以内 ・奨学金 月額 17,000～21,250ズロチ ・宿舍費、食費支給 ・授業料、医療費免除	(財)日本国際教育協会留学情報センター (1月)
	スラブ研究フェロシップ	5名		ポーランドの哲学やポーランド文化の広い範囲の分野におけるスラブ研究			
メキシコ	メキシコ政府奨学金留学生	5名		メキシコの大学で専攻可能な分野(除く医学)	・大学卒業者(含む見込み者) ・35歳未満の者 ・単身でメキシコに渡航、滞在 する者	・期間 1学年 ・滞在費 月額 60,000～70,000メキシコ・ペソ ・大学登録料等支給 ・傷害保険等付保 ・往復渡航費支給	(財)日本国際教育協会留学情報センター 在日メキシコ大使館 (5月)
連合王国	国立大学等英語教育担当教員の連合王国派遣	約8名		英語教育	・国立大学等において英語教育を担当する専任教員 ・30歳以上50歳以下の者 ・最近5年以内に連合王国又はアメリカ合衆国において研究に従事又は研修を受けたことのない者	・期間 約2ヶ月間 ・滞在費支給 ・往復航空賃支給	文部省学術国際局国際教育 課 (1月)
ユーゴスラビア	ユーゴスラビア政府奨学金留学生			人文科学、社会科学、文化(ユーゴスラビアの大学で受入れ可能な分野)	・大学卒業者(含む見込者) ・40歳未満の者	・期間 3～9ヶ月間 ・奨学金 月額 18,500ディナール	(財)日本国際教育協会留学情報センター (10月)

## 財団等による研究助成関係の募集のお知らせ

昭和61年度に各種財団等から本学に通知のありました研究助成等の募集は次のとおりです。

なお、これらの募集通知は毎年一定しているものではなく、その年によって若干の変更あるいは募集しないもの、またこの他にも関係部局へ直接送付されるものもありますので、この点についてお含みおきの上参考にして下さい。

募集要項等の詳細は、各部局の庶務（総務）係へ問い合わせ願います。

名 称	対 象 分 野	対 象 者	助 成 金 額	募 集 件 数	通 知 時 期
研究活動助成 (庭野平和財団)	I 宗教協力に関する研究 II 現代における宗教の役割に関する研究 III 平和を阻害する諸要因に対する宗教的アプローチに関する研究 IV 科学と宗教・倫理に関する研究 V 地域レベルでの宗教協力活動 VI 生命操作と宗教・倫理に関する研究	制限なし	○総額 2,500万円 * I～V 1件につき100万円 * VI 1件につき200万円		4月
伊勢丹奨学会商業経済研究助成	国民生活の向上と商業の発展に寄与する研究	大学又はこれに準ずる機関に在籍し、研究に従事している教授、助教授及び研究生もしくはそのグループ	○総額 300万円	1～2件	4月
研究助成金 (旧村科学技術振興財団)	科学技術に関する研究・開発の助成及び振興を図り、富山県の産業の発展と福祉の増進に寄与するもの	対象となる研究を行なう研究機関又は研究者	○総額 840万円 A. 研究助成 1件につき 50～200万円 B. 外国人研究者の招へい、受入れ及び学術交流集会の援助 20～50万円	A. 8～10件 B. 1～2件	4月
研究活動及び設備等助成金 (富山相銀奨学育英財団)	制限なし	富山県内に所在する大学、短期大学及び高等学校	○大学に対して 総額 100万円	(隔年)	4月
マーケティング研究助成 (日本マーケティング協会)	マーケティング分野の研究	大学に所属し、 1. 満40歳以下の助教授・講師・助手(何れも常勤) 2. 大学院博士課程を研修中の学生 3. グループ研究は3名以上による研究プランを対象	個人の部 1編20万円 グループの部 1編60万円	3件	4月
伊藤科学研究助成金 (伊藤科学振興会)	化学、地学、生物学	大学の助教授、講師、助手及び大学院博士課程在学中の学生並びにこれに準ずる者又はこれらにより構成される団体もしくは研究機関	○1件につき 100万円以内	12件	5月
助成・援助 (電気通信普及財団)	○電気通信に関する法律、経済、社会文化的研究調査 ○電気通信技術に関する普及、振興 ○電気通信を利用した福祉、文化事業 ○電気通信に関する学術交流及び国際協力	制限なし	制限なし		5月
国際通信研究奨励金 (KDDエンジニアリング・アンド・コンサルティング)	国際電気通信の進歩改善のための独創的な調査研究	国際電気通信に関する基礎的又は調査研究を行うKDD社外の個人又は団体	○総額 3,500万円	10件程度	5月

<p>海外渡航旅費援助 (電気通信普及財団)</p>	<p>電気通信、情報通 に関する研究者の学術交 流</p>	<p>①海外における電気通信、情 報通信に関する学会に出席し、 原則として研究発表(申込者 が中心となって行った研究者 発表に限る。)を行う研究者 であって所属する機関の長の 推薦を受けた者。 ②海外における電気通信、情 報通信に関する国際機関の 討議に参加する者で所属する 機関の長の推薦を受けた者。 なお、招請者または所属 する機関から旅費の全額を支給 される者は除く。</p>	<p>ヨーロッパ 50万円 北米(東海岸) 40万円 北米(西海岸) 30万円 ハワイ 20万円 中米 35万円 南米 45~60万円 オーストラリア 50万円 東南アジア 25万円 中国 15万円 韓国 10万円 その他 個別に決定 注①援助金額は、学会 の開催地までの往復 航空運賃と滞在費の 一部 ②南米については、 表の金額の範囲内で 個別に決定 ③同一の申込者につ いて1年度に1回を 限度</p>		<p>5月</p>
<p>社会科学国際フェロ ーシップ (国際文化会館)</p>	<p>①社会科学一般 ② 露途上国研究 ③アメリカ研究</p>	<p>①大学・研究機関等に在籍する研 究者 ・男性の場合は35歳未満 ・外国の大学院を修了した者及び 最近3年間に継続して1年以上外 国に滞在した者は資格がない。 ・外国の大学での学位取得を目的 としないこと。 ②制限なし ③①と同じ</p>	<p>○外国の大学・研究機 関等に2年間在籍し、 必要経費を全額支給</p>	<p>数名</p>	<p>6月</p>
<p>朝日賞 (朝日新聞社)</p>	<p>学術、芸術、科学技術 社 彙社、体育その他 あらゆる分野</p>	<p>各分野で傑出した業績をあげ 我 国の文化、社会の発展と 向上に多大の貢献をした個人 及 団体</p>	<p>○1件につき 100万円 (副賞)</p>		<p>6月</p>
<p>カシオ科学振興財団</p>	<p>自然科学 ・ 電工学 ・ 機 械 学 人 対 学</p>	<p>大学研究機関が推薦する研究 グループまた個人研究者</p>	<p>自然科学 A 300万円 2件 B 200 円 5件 C 100 円17 件 計 3,200万 円 人文科学 D 1 00円 5件 計 500万円</p>		<p>6月</p>
<p>RIC論文・研究 プロジェクト (国際協力推進協会)</p>	<p>1.開発途上国への国際 協力に関する理論的・ 実証的研究 2.開発途上国への国際 協力政策に関する研究 3.国際協力に伴う政治・ 経済・社会・文化 への影響に関する研究 4.国際協力についての 日本の国民的理解に関 する研究</p>	<p>制限なし</p>	<p>A. 論文 1件につき 02-100万円 B. 研 究プロジェクト 1件につき 50万円</p>	<p>A. 5件以内 B. 2件程度</p>	<p>9月</p>
<p>日加研究賞 (カナダ政府)</p>	<p>カナダについての又は 日加関係の何らかの側 面に関する独創的研究</p>	<p>すべての日本の大学及び民間 研 究 機 関</p>	<p>○総額5万カナダドル</p>		<p>9月</p>
<p>調査研究助成 (日本住宅総合セン ター)</p>	<p>国内、国外の住宅問題 都市問題、土地問題、 省エネルギー問題を含 む次の部門 1.社会、経済、経営に関 する部門 2.法律及び制度、政策 に関する部門 3.住宅、都市の計画に 関する部門 4.住宅の建設及び技術 開発に関する部門</p>	<p>○大学及び大学付属研究機関 の個人又はグループ 研究者 ○その他の 研 究 機 関 における 個人又はグループ 研究者</p>	<p>○総額 3,300万円 ○1 件につき 200万円以内</p>		<p>9月</p>
<p>研究助成金 (稲盛財 団)</p>	<p>○自然科学分野 ○人文・社会科学分野</p>	<p>日本に居住者</p>	<p>○1件につき 100万円程度</p>	<p>数十件</p>	<p>10月</p>
<p>二十一世紀文化学術 奨励金</p>	<p>1.自由企業体制の将来 展望 2.政府の経済的機能と 民間 経済活動への関わり 3.科学技術の発展と社会 4.日本の社会的文化的 特性と国際性</p>	<p>経済、社会、文化の諸分野の学 術研究に従事し ている 者</p>	<p>○総額 3,500万円 ○1件につき 100~500万円</p>		<p>10月</p>

工藤学術財団 A. 研究補助 B. 褒賞 C. 研究成果発表補助	自然科学分野	○理学部,工学部,医学部,農学部及びその他自然科学部門及び附属研究所等に籍を置く個人研究者及び団体 ○Aについては45歳未満の者	A. 総額 500万円 B. " 50万円 C. " 50万円	A. 8~10件 B. 1件 C. 1件	10月
フィリップ・フォン・フランツ・シーボルト賞 (ドイツ学術交流会)		日本とドイツ連邦共和国の文化に関し、よりよい相互理解の貢献のあった日本人学者	○5万マルク	1件	10月
環境賞 (環境調査センター、日刊工業新聞社)	環境保全に関する科学技術の調査、研究、開発で画期的な具体的成果を挙げ、又は成果が期待されるもの	個人又はグループ	○環境庁長官賞 100万円(副賞) ○優良賞 50万円(副賞)	5件程度	11月
藤原賞 (藤原科学財団)	自然科学分野	我が国の国籍を有し、科学技術の発展に卓越した貢献をした者	○1件につき 1,000万円 (副賞)	2件	11月
とやま賞 (富山県置県百年記念財団)	富山県の将来を担う前途有為な人材育成に資する。	次の各号に該当する個人又は団体 A. 学術研究、発明、芸術文化スポーツなどの分野においてすぐれた業績をあげたもの B. 富山県出身又富山県内在住のもの	制限なし		11月
朝日学術奨励金 (朝日新聞社)	制限なし	制限なし	制限なし		12月
学術奨励金 (三島海雲記念財団)	○自然科学部門 食品に関連ある農学、畜産学、水産学、食品学、栄養学、醸造学、微生物学、生化学 ○人文科学部門 哲学、史学、文学及び政治学、経済学等社会科学に関する理論的及び歴史的研究(実態調査を除く。)	A. 機関奨励金 各大学に所属する学部及び研究所又は研究代表者を中心とする学内研究室及びそれに準ずる研究機関 B. 研究者奨励金 研究者個人に対する奨励金であるが、協力者のあることを妨げない。	●1件につき 40~100万円		1月
研究調査助成 (日本証券奨学財団)	法学、経済学、社会学、理学、工学	大学において学術文化の研究調査に従事している個人又はグループで55歳以下の者	○総額 4,000万円 ○1件につき 400万円以内	20数件	3月
国際生物学会賞	各年度毎に決定する	生物学の分野において世界的にすぐれた業績を挙げ、世界の学術進歩に大きな貢献をした研究者	○1,000万円 (副賞)		3月
研究助成 (日本'検財団)	人間活動と環境保全との調和に関する研究	制限なし	制限なし		3月

### 化学教育賞受賞

去る4月2日、社団法人日本化学会から、化学教育賞が本学部林良重教授に授与されました。林教授の「視覚障害者教育を中心とした化学教育の

先駆的・実践的研究」による研究上の功績に加え、長年にわたる化学教育の功績が高く評価されたことによるものであります。

### 昭和62年度 科学研究費補助金(海外学術研究)の内定

所属	職	氏名	研究課題	交付内定額
理学部	教授	小黒 千足	カニクイガエルの水、塩及び浸透圧調節：生理学的、形態学的及び発生学的観点より	千円 6,000

人 事 異 動

異動区分	発令年月日	氏 名	異動前の所属官職	異 動 内 容	任命権者
採用	62. 4. 2	赤羽 賢 司		教授(理学部)	文 部 大 臣
	62. 4. 6	富 樫 昇		技術補佐員(経理部主計課)	富山大学長
	"	平 田 賢 治		技術補佐員(経理部主計課)	"
	"	北 野 哲		技術補佐員(経理部主計課)	"
	"	山 田 麻 里		事務補佐員(附属図書館)	"
	62. 4. 10	本 田 善 彦		事務補佐員(附属図書館)	"
	"	藤 木 彌三郎		事務補佐員(附属図書館)	"
	62. 4. 16	小笠原 秋 子		事務補佐員(人文学部・理学部)	"
	"	藤 田 敏		事務補佐員(教養部)	"
	62. 4. 20	高 城 政 信		技能補佐員(施設課機械操作手)	"
	62. 5. 1	山 崎 登志成		講師(工学部)	"
"	河 西 敏 治		臨時用務員(教養部作業員)	"	
転 任	"	岡 田 勢 一	文部技官(施設課)	文部技官(鳴門教育大学施設課)	鳴門教育大学長
臨時的任用	62. 4. 13	石 倉 充 紀		教諭(教育学部附属養護学校)	富山大学長
併 任	62. 4. 2	作 道 榮 一	教授(工学部)	評議員の併任を解除する	文 部 大 臣
	62 "	作 道 榮 一	教授(工学部)	工学部長・評議員(62. 4. 2~64. 4. 1)	"
	"	タタ 静 夫	教授(工学部)	評議員(62. 4. 2~62. 5. 31)	"
	62. 4. 25	大 谷 重 彦	教授(教養部)	評議員(62. 4. 25~64. 4. 24)	"
	"	小 林 浩 一	教授(教養部)	評議員(62. 4. 25~64. 3. 31)	"

学 内 諸 報

名誉教授の称号授与

昭和62年 3月31日限り停年により退職された次の方々に対し、昭和62年 4月17日付けで富山大学名誉教授の称号が授与されました。



名誉教授  
石 原 ミ キ  
東京女子師範学校卒業

昭和22年 4月富山青年師範学校授業嘱託(常勤),

同年10月任文部教官富山青年師範学校勤務, 同25年 1月兼富山大学講師(教育学部), 同26年 3月同講師, 同42年 5月同助教授, 同52年 7月同教授となり, 40年の永きにわたり終始熱心に学生の教育・指導に専念され, 教育者等多数の人材育成に貢献されました。

この間, 教育学部家庭科の教官として学部及び教科の充実・発展に尽力されました。

一方, 研究面では被服の縫製部門, 特に「縫い目の強度に関する研究」を行い, 布, 縫い糸, 縫い目型式等の諸条件と針目の大きさとの関連性について解明し,

「縫製」に関する研究論文を多数発表されました。

これらの発表によって、既製服の縫製が急速に進み、また、既製服衣料サイズ設定のための「日本人の体格調査北陸地区調査班身体計測責任者」として調査に参画され、この結果既製衣料寸法の標準化が図られ、衣料サイズのJIS化が実現し今日の既製服の急速な発展がみられる等、その成果は高く評価されました。



名誉教授

児 島 毅

東京帝国大学理学部物理科

卒業 理学博士

昭和21年8月文部教官富山高等学校勤務、同24年6月兼富山大学文理学部助教授、同25年3月富山大学文理学部助教授、同39年3月同教授、同52年5月文理学部改組により、理学部教授となり、37年有余の永きにわたり、物理学を担当、常に厳正な教育姿勢のなかにも終始懇篤な温情をもって、学生の教育・指導に当り、多数の優秀なる教育者・技術者・研究者を育成されました。

この間、昭和42年電波物理学講座、同53年にレーザー物理学講座の創設に、また、富山大学計算センターの設置に尽力され、同40年同センターの発足と同時に10年間に亘り、運営委員としてセンターの整備拡充・運営に大きく寄与されました。

一方、研究面では、戦後いち早く世界的にも数の少ないマイクロ波分光計を製作し、以来一貫してマイクロ波分光の研究を行い、メチルメルカプタン分子、フェノール分子、メチルアミン分子、ヒドラジン分子等についてのマイクロ波分光による優れた研究は、高い評価を受けた。また、近年アセトアミド分子の研究も行い、この分子がきわめて低い内部回転の障壁を持つことを明らかにした。

また、日本物理学会北陸支部長を勤め、日本物理学会1984年秋の分科会が本学で開催され、その実行委員長として重責を遂行されるなど、学術の振興及び地域の発展に貢献されました。



名誉教授

小 林 貞 作

名古屋帝国大学理学部生物

学科 理学博士

昭和28年4月富山大学文理学部助教授、同40年4月同教授、同52年5月文理学部改組により、理学部教授となり、32年の永きにわたり、生物学を担当、常に厳正な教育姿勢のなかにも終始懇篤な温情をもって、学生の教育・指導に当り、多数の優秀なる教育者・技術者・研究者を育成されました。

この間、昭和44年6月から同46年5月、同52年5月から同54年5月まで富山大学評議員、同47年2月から同49年2月まで富山大学附属図書館長を務めるなど、大学の管理・運営に参画し、本学、理学部並びに附属図書館の発展に大きく貢献されました。

一方、研究面では、一貫して油脂資源植物であるゴマを対象とした研究を行い、細胞遺伝学的、放射線生物学的基礎研究によって、その遺伝特性を明らかにするとともに多数の有用系統を作出し、これを受けて外国の栽培ゴマの改良に尽力し、その成果は国際連合食糧農業機関（FAO）を始め中国、東南アジア、アフリカ、南米諸国を中心に世界23か国と国際協力研究をすすめ、世界的にも「小林ゴマ」として高い評価を受けています。

また、学内においては、放射性同位元素総合実験室の設置・運営に寄与し、学外においては、日本遺伝学会、日本植物学会及び日本染色体学会の各評議員、富山県生物学会長などとして、学術の振興及び地域の発展に寄与されました。



名誉教授

中 川 正 之

京都帝国大学理学部物理学

科卒業 理学博士

昭和24年11月文部教官富山大学富山高等学校講師、同25年3月富山大学文理学部助教授、同41年4月同教授となり、同52年5月文理学部改組により、理学部教授となり、37年有余の永きにわたり、物理学・雪氷学等を担当、常に厳正な教育姿勢のなかにも終始懇篤な温情をもって、学生の教育・指導に当り、多数の優秀なる教育者、技術者、研究者を育成されました。

この間、同48年6月から同58年4月までの5期10年間富山大学評議員、同58年4月から同62年3月までの2期4年間富山大学理学部長併せて富山大学トリチウム科学センター長を務めるなど、本学の管理・運営に参画し、理学部並びにトリチウム科学センターの発展に大きく寄与されました。

一方、同人の研究業績としては、X線回折法および電子顕微鏡による金属・合金等の結晶の成長と析出、積雪の物理的性質、融雪機構、雪崩等に関する研究を続け、特に富山県黒部峡谷での雪崩研究プロジェクトによる成果は、初めて自然発生の大規模雪崩の実態を明らかにしたものと高く評価されています。

また、学外においては、日本雪氷学会理事、電子顕微鏡学会評議員、日本学術会議地球物理学研究連絡委員会雪氷小委員会委員、科学技術庁科学技術調整費雪崩分科会主査、建設省なだれ防災対策調査委員会委員、富山県総合雪対策研究会議技術開発部会長など学術の振興及び地域の発展に貢献されました。



**名誉教授**

**塚 島 寛**

**名古屋帝国大学工学部応用  
化学科卒業 理学博士**

昭和26年5月富山大学講師（工学部）、同28年2月同助教授、同39年4月同教授となり、35年有余の永きにわたり、終始熱心に学生の教育・指導に専念され、工業技術者、教育研究者等多数の人材育成に貢献されました。

この間、昭和58年5月から2年間富山大学評議員として本学の発展に大きく寄与されました。

一方、研究面では、石炭の成因、構造、溶解(液化)等に関する基礎的、応用研究に専念し、富山県魚津海岸で発見された埋没林の石炭化度合を明らかにしたことやH-NMR分析等によって人造石炭の構造解析を行い、天然の石炭の生成行程の解明に資した。更に石炭を常温、常圧下でベンゼンに溶解することについてSternbergの方法に改良を加え、これを工業的利用の可能性を見出すことに努力した。その後も、文部省科学研究費補助金（エネルギー特別研究・9年間、総計2,030万円）を受けて多くの業績を挙げ、これらの成果は、学会論文、国際学会での発表論文、文部省エネルギー特別研究成果報告書、石炭科学会議論文集の総計45編等に公表されている。なお、昭和61年には燃料協会賞（学術部門）を受賞している。

また、日本化学会常議員、同近畿支部代議員及び燃料協会評議員を歴任し、学界の発展にも寄与されました。



**名誉教授**

**井 村 定 久**

**北海道帝国大学工学部機械  
工学科卒業 工学博士**

昭和30年6月富山大学講師（工学部）、同31年6月同助教授、同38年6月同教授となり、31年有余の永きにわたり、終始熱心に学生の教育・指導に専念され、工業技術者、教育研究者等多数の人材育成に貢献されました。

この間、昭和40年代前半に吹き荒れた大学紛争の際に、学生対策委員を務め、秩序回復に尽力し、今日の本学の発展に寄与されました。

一方、研究面では、浸透を伴う熱伝導、熱ふく射、粉体の熱伝導、非定常熱線法に関する研究、更に複合材料の物性に関する研究を行い、これらの成果は、学会誌掲載論文20数編に公表されている。

また、日本機械学会評議員、同北陸信越支部長、日本伝熱研究会編集委員長、日本熱物性研究会幹事を歴任し、学界の発展にも寄与されました。



**名誉教授**

**若 林 嘉 一 郎**

**京都帝国大学工学部機械工  
学科卒業 工学博士**

昭和26年4月福井大学講師に就任以来、同33年10月静岡大学助教授、同38年3月同教授、同年4月富山大学教授（工学部）となり、36年の永きにわたり、終始熱心に学生の教育・指導に専念され、工業技術者、教育研究者等多数の人材育成に貢献されました。

この間、昭和57年2月から2年間富山大学附属図書館長及び評議員として本学の発展に大きく寄与されました。

一方、研究面では、高温伝熱媒体であるドーサムAの熱力学的性質を追及し、その蒸気表を作成した。その後、安全工学関係の研究も行き、また他教官と共同で「物質移動係数に対する乱流促進体の影響」「偏心二重管内の熱伝達」「米の乾燥割れ機構」「ニッケル鉈の湿式処理」を行っている。これらの成果は、学会論文42編等に公表されている。ほかに安全工学の業績により、昭和51年には、富山新聞社賞（学術部門）、同60年には、労働大臣功績賞、同61年には安全協会玉置

賞をそれぞれ受賞している。

また、化学工業協会評議員、安全工学協会理事、富山県高圧ガス保安管理研究会、富山県産業廃棄物対策委員会の各会長等を歴任、昭和51年から1年余り、文

部省学術審議会専門委員（科学研究費分科会）を務めて大学教官の研究助成事務の補佐を行って学界の発展にも寄与されました。

### 教育学部附属学校共用棟新営工事

本学教育学部附属学校共用棟新営工事は、昨年6月着工され3月に竣工しました。

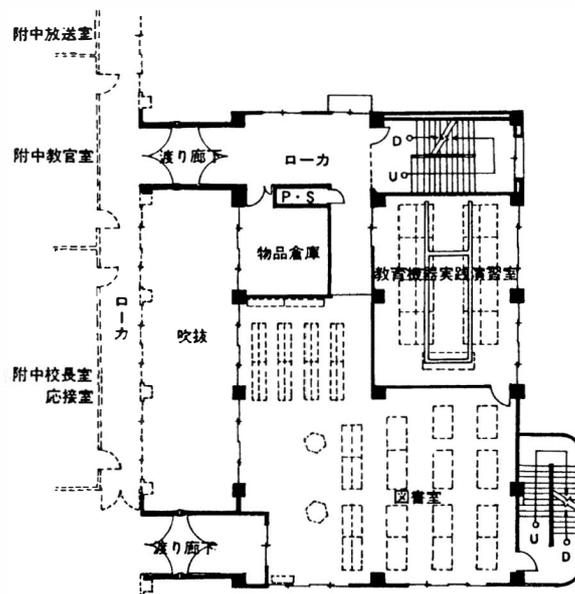
請負業者

真柄建設株式会社（建築）

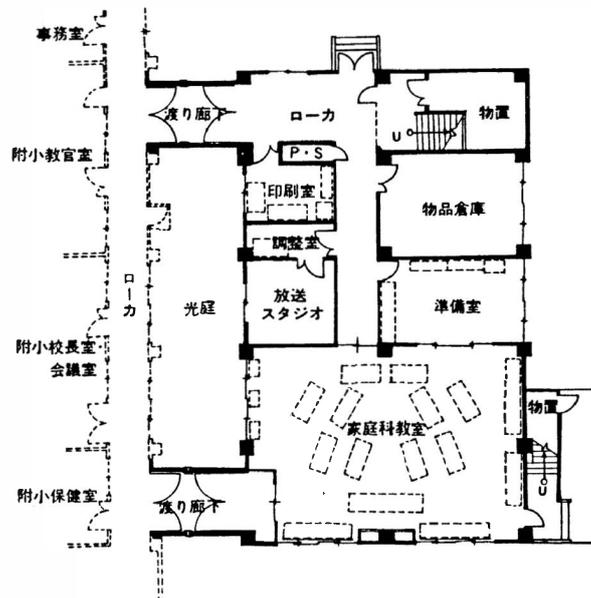
木下電気株式会社（電気）

日本開発興業株式会社（設備）

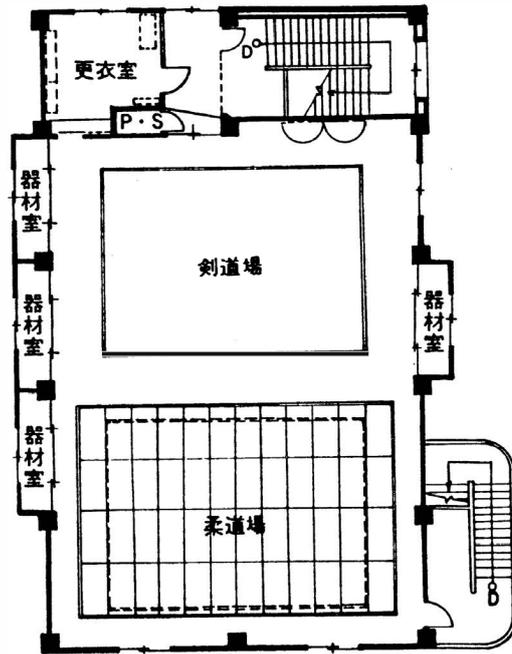
建物面積 1,217m<sup>2</sup> 4階建



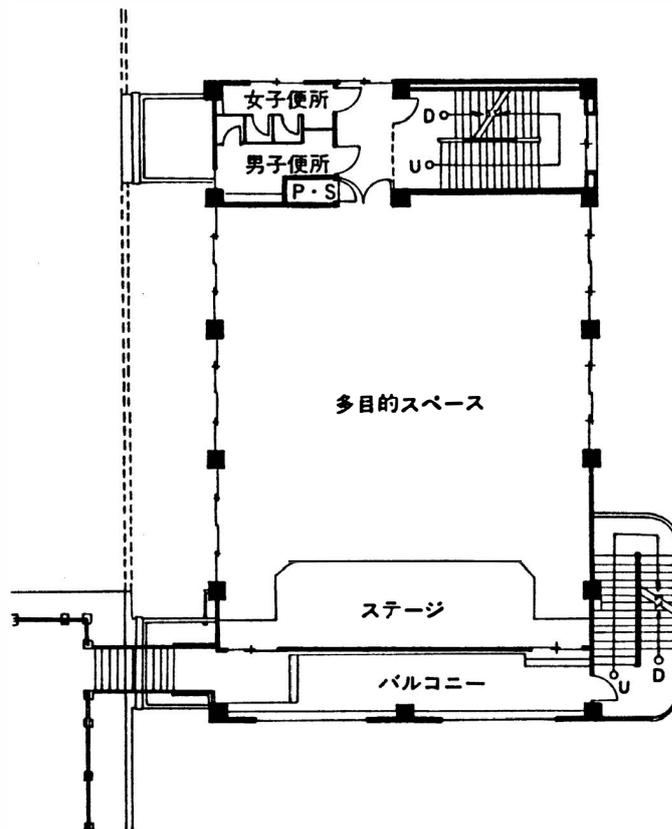
2 階 平 面 図



1 階 平 面 図



4 階 平 面 図



3 階 平 面 図

## シリーズ「富山大学、あの日あの頃」(12) 老生の追憶 その1

富山大学名誉教授の会 溝上茂夫

### 1. おことわりの前言

与えられた標題は私の選んだものではない。

しかし、このシリーズのテーマは、極めて適切な好い構想である。私のこのたびの寄稿はその逆、「この日、この時」となるかも知れない。しかし「あの」にしても、「この」にしても日と時の語は同じ「時」の一語はいささか大胆すぎるが、「無」とか「実存」とかあるいは、「出会い」とかなど、数々の哲学用語と関連して深い一つの本質を示していると思う。

幾たびか、名誉教授の会の幹事から、寄稿をすすめられてきたが、多年それではという気になれなかった。この意識が急転換した契機は、先月公会堂での卒業式から受けた深い感動、もう一つはこの春、大学キャンパスの美しき景観の魅力。正門より続く絆纏木の並木、老松の域に達した樹々の列、絢爛萬葉の桜花。日々仰ぐわが友たちの声なき呼びかけと、心に訴える尽きせぬ魅力。これらが一つとなって積極的に執筆を促した。老翁われの富山大学を愛し慕う念のいかに深いかは、語り尽せない。名も無き者の禮は、先ず自己紹介すべきだが、しかしこれは後日に委ね、今はただこの一語を。

トルコ帽子か、ロシヤ帽か、その名は知らないが、これを冠り、しばしば竹み各学部の校舎を仰ぎながら杖をひく。学生諸君は、時にこの老翁の姿を垣間みることがあるであろう。いま、ここにたわ言を書きつゞける筆者はその人物である。強者どもの夢の跡の、このキャンパス。雉たちが産卵と子育てをしていた頃からの、生き証人の一人である。老いては後輩と教え子に学ぶ。もはやあの日あの頃は後廻しにして、印象新鮮のうちに、この日この時に移らねばならない。小生、学内の散策を愛し、逍遙学派の伝統を継ぐ者。大学正門より図書館へのこの道、「哲学の道」を敢えて遠くに求める必要はない。富山大学はもはや「学林」の名にふさわしき品位を備えている。かの公孫樹(いちょう)並木に劣るところがない。

### 2. 卒業式の印象

定年退官以来まさに20年、招待に応じて、このたびはいかにしてもとて列席し若返った。この筆は流れる

想いのまま。

拳式に先立ち、人文学部2年生が指揮棒を振る。学生諸君の大がかりなシンフォニーオーケストラ、まこと上出来にして盛名の大家たちの演奏会に優る満足感。

その後、学長のうしろに続いて来賓の定席に坐す。うしろの席から見渡すと、さしもの公会堂階下階上は満席、水を打ったような静けさ。司会事務官による開式宣言。直ちに学部長侍立のもとに、学部別の卒業証書の授与。全学部学生以外に大学院、専攻科、短期大学部を加えて証書受領者、実に1,270名と聞く。壇上に登って、学長の前に立つ各代表学生諸君の礼儀正しい態度も、理想にふさわしく極めて好印象。代表のある若者はくると向きを返へして重い証書を高くさし上げて学卒者たちに示す。その都度その学卒者全員から喜びの拍手。学部によっては、授与された証書を高く掲げて躍るもあり、学部によっては期待に反して、小学校卒業児童のように沈黙のままに降壇。それが却って愛嬌となって大拍手。授与が終ると卒業生席から「ありがとう」の声があがる。雰囲気平和にして明るく、ユーモアも溢れ、筆者は深い感動とともに好感を抱き心も明るくなった。

頂点は大井信一学長の告辞。音声力あり、肺腑より出で、想い深く、視野広く、時局から卒業生たちの厳しい前途に思いを寄せ、彼らに希望を喚びさます時代の展望と、激励の辞などなど。卒業学生一千余名も感銘共感、頷きよく理解して聴いていた。学長告辞は誰が聴いても秀れたものであった。このような告辞をいただき、励まされて巣立つ学卒者たちは幸いなるかな。長々と続く来賓たちの政談演説まがいの祝辞もなく、卒業生代表の答辞もなく、簡潔明瞭短時間にして終了したことは好かった。今昔相違の感深し。これらは過褒に非ず。

式後控室に引き上げ大井学長、各学部長、西村清事務局長、6名の名誉教授たちと、短時間で簡素な親睦会に出席した。小生にとっては、この懇談会は楽しかった。日頃は怠慢者の筆頭であった者が、かく申すにはいささか憚りを感じるけれども、はじめて出席され

た名誉教授各位にしても、これほど大切にされ、愛情をもって接遇されれば、今後能う限り列席なされば、一層喜びも増されるであろうから、是非ともとお勧めしたい。懇談会の最後に司会者の、黒坂富治名誉教授から、突然乾杯の音頭を指名され、小生富山大学の弥栄を万歳にこめて三晶し、閉会となった。

### 3. 富山大学の発展

かく申す筆者、今世紀初頭の寅年生れ、前学長柳田友道名誉教授も寅年、ひとまわりの相違である。小生の親友たちに、また病氣療養中敬愛する友にも、すばらしかったこの卒業式の模様的一端を報告した次第である。

さて我等の富山大学は、文理学部がわかれて人文と理学部となり、歴史輝く薬学部との別れは惜別の情に堪えなかったが、自らの願いが叶って新鋭の医科薬科大学となり、一層発展の途上にあることを祝福せねばならない。十年二十年の間、いろいろの困難にもよく忍び、よく耐えて時を待ち、工学部の移転も成就し、キャンパスも大拡張された。小生執筆に際し、念のため、はじめて杖をひいて工学部の外郭を一巡した。工学部移転は遅かったが、規模は極めて拡大、最新の美しい建築の各教棟と、最新鋭を誇る各専門の設備内容。禍いを転じて福とした偉容であった。学生たちも極めて親切明朗にして礼節豊か。老生を見つけるとわざわざ引きかえして、学部玄関まで案内してくれた。感ずべき学生もあった。

富山大学は老生らの時代と比して、五学部と教養部は、何れも教授陣容の充実、国際化の進展、ことに中堅層若年層の研究業績の見るべき成果等々、隔世の感が大へん嬉しかった。

### 4. 餘滴

この初稿無計画に、言辭選ばず一気に筆を走らす。執筆に際し、土井盛治教育学部事務長と事務官の、老生に対する好意に感謝。語り遺すべき秘話は限りなし。老生はすでに悪しき記憶の忘却の川と、善き記憶のみの想起の流れ（ダンテの神曲）を共に渡り了えたる身。今後は以前の態度を一変し、いつにても即刻執筆したい。老生の富山大学とその全員に寄せる、遺言にもなることと思う。「あの日、あの頃」はよい企画であった。

欄筆にあたり、一年間の庭作業一応整い、これより85歳にして書齋に復帰、読書執筆の希望あり。

小生より一まわり後の寅年、東大ポートマンであった前学長柳田友道先生も、富山に永く居住される。我が願い叶い共々に喜び嬉し。仰ぐ立山と、俯して見る神通の清流、美しき富山。愛する富山大学の近くで、終焉を遂ぐる定め。ここに紙面尽く。多少の不遜の失言は寛恕を乞う。（キャンパス桜花満開の頃）

◆筆者：昭和24年3月 富山大学に着任

昭和43年4月 停年退職

昭和46年5月 富山大学名誉教授の称号授与

## 職 員 消 息

### 《新任者住所》

#### 本 部

#### 庶 務 課

庶務主任 松井 博文

#### 人 事 課

給与主任 川原 卯吉

#### 経 理 課

実務研修生 木下 晋

文部事務官 池田真紀美

#### 施 設 課

文部技官 津島 康二

《住所変更》

教育学部

文部教官 清水 建次

文部教官 村上 宣寛

文部教官 堀 登

経済学部

教 授 山崎 清

理 学 部

教 授 松浦 郁也

工 学 部

文部事務官 加賀見 実

教 養 部

助 教 授 竹内 章

附属図書館

文部事務官 小原 俊一

学 生 部

学生部次長 小山田浩彦

事務局付 黒田 正男

奨学係長 大場 克晃

人文学部・理学部

事務補佐員 小笠原秋子

臨時用務員 田中 常達

臨時用務員 高桑 弘基

工 学 部

講 師 山崎登志成

教 養 部

臨時用務員 河西 敏治

事務補佐員 二口 真也

《改 性》

教育学部

文部事務官 堀 登

(旧姓 大 杉)

.....

## 主 要 行 事

.....

### 本 部

- 4月3日 国立大学協会第6常置委員会  
(於：国立大学協会)
- 3～4日 理学部物理学科定員一部留保第2次募集入学手続
- 7日 東海・北陸地区国立大学長会議(臨時)  
(於：名古屋大学)
- 10日 昭和62年度富山大学(学部, 専攻科, 大学院研究科)入学式(於：富山市公会堂)  
教養部, 学生部, 保健管理センター, 附属図書館オリエンテーション
- 11日 生協オリエンテーション
- 13日 学部オリエンテーション  
新入生健康診断(於：保健管理センター, 学生会館, 工学部)
- 14日 庶務係長会議  
学生団体オリエンテーション
- 15日 一般設備及び営繕関係要求説明  
(於：文部省)  
防火設備整備費要求説明(於：文部省)
- 17日 第1回評議会
- 20日 第1回補導協議会  
第1回授業料減免委員会
- 21日 第1回入学試験管理委員会及び第1回入学者選抜方法研究委員会の合同委員会
- 21～22日 第71回東海・北陸地区国立学校等会計部課長会議(於：三重大学)
- 22日 定期健康診断(工学部)
- 23日 第1回学園ニュース編集委員会
- 24日 部課長会議  
第1回事務協議会  
第45回東海・北陸地区国立大学等施設部課長会議(於：浜松医科大学)

- 25日 北陸地区国立大学体育連盟運営協議会  
(於：富山大学)
- 28日 名誉教授称号授与式  
学長選考基準検討委員会  
会計係長会議
- 30日 発明委員会  
学務関係係長会議

### 人 文 学 部

- 4月1日 将来計画委員会
- 6日 将来計画委員会・予算委員会の合同会議
- 8日 教務委員会  
教授会  
人文科学研究科委員会
- 9日 補導協議会(持ち回り)
- 13日 前学期授業開始  
新入生オリエンテーション及び健康診断
- 15日 図書委員会  
教務委員会  
入学者選抜方法検討委員会
- 22日 紀要委員会  
教授会  
人事教授会  
人文科学研究科委員会  
職業補導委員会
- 27日 補導委員会

### 教 育 学 部

- 4月3日 附属小学校第一学期始業式
- 4日 附属小学校入学式
- 6日 授業開始

- 7日 附属幼稚園第一学期始業式  
 8日 学部教務委員会  
 学部教務・補導合同委員会  
 学部補導委員会  
 教授会  
 人事教授会  
 附属中学校，附属養護学校第一学期始業式  
 9日 附属中学校，附属養護学校入学式  
 10日 附属幼稚園入園式  
 13日 新入生オリエンテーション及び健康診断  
 15日 学部入学者選抜方法検討委員会  
 27日 学部予算委員会  
 30日 学部補導委員会  
 拡大将来計画委員会

### 経済学部

- 4月8日 前学期授業開始  
 学部教務委員会  
 教授会  
 改組経過報告書作成委員会  
 10日 「夜間主コース」新入生オリエンテーション  
 13日 「昼間主コース」新入生オリエンテーション及び健康診断  
 学部補導委員会（持ち回り）  
 15日 改組経過報告書作成委員会  
 財務委員会  
 22日 学部教務委員会  
 人事教授会  
 教授会  
 27日 日本海経済研究所運営委員会  
 28日 学部補導委員会  
 30日 学部将来構想検討委員会

### 理学部

- 4月9日 教授会  
 人事教授会  
 10日 図書委員会  
 13日 前学期授業開始  
 新入生オリエンテーション及び健康診断

- 22日 学科主任会議

### 工学部

- 4月7日 学部教務委員会  
 8日 教授会  
 工学研究科委員会  
 専任教授会  
 13日 入学生オリエンテーション及び健康診断  
 14日 地域共同研究センター創設準備委員会  
 学部補導委員会  
 15日 前学期授業開始  
 選考委員会  
 22日 専任教授会  
 学科主任会議  
 学生定期健康診断  
 28日 学部補導委員会  
 30日 学科主任会議

### 教養部

- 4月6日 教務委員会  
 8日 補導委員会  
 教授会  
 10日 教養部オリエンテーション  
 11日 前学期授業開始  
 夜間主コース前学期授業開始  
 15日 図書委員会  
 将来計画委員会  
 22日 施設整備委員会  
 教務委員会  
 予算委員会  
 視聴覚教育委員会

### 附属図書館

- 4月16日 第1回図書館増築計画に伴う検討委員会  
 20日 係長事務打合せ会  
 23～24日 第38回北信越地区国立大学図書館協議会  
 （於：上越教育大学）  
 24日 電算化ワーキンググループと富士通S Eと

の打合せ

科生，大学院生)

28日 係長事務打合せ会

**保健管理センター**

4月10日 新入生オリエンテーション

13日 新入生健康診断

22日 定期健康診断(工学部 3・4年生，専攻

**経営短期大学部**

4月11日 前学期授業開始

23日 財務委員会・閉学式準備委員会の合同委員会

—職員会館の宿泊の御案内—

- ◎ 利用日……土・日曜日及び祝日も利用できます!!
- ◎ 申し込み…利用日の2日前までに!!
- ◎ 門限時刻…午後10時………御協力を………!!

- ◎ 構内での自動車等の運転は，教育・研究に支障を来さないよう安全運転に努め定められた交通方法，歩行者の安全及び騒音防止に努めましょう!!

◇訂正(おわび)

学報 昭和62年 4月1日発行 第281号

ページ	訂正箇所	誤	正
23	職員消息	古川真利子	吉川真利子
24	職員会館の宿泊の御案内	午後10町	午後10時
25	主要行事 本部 30日	理学部室員	理学部定員

## 資 料

## 昭和62年度入学者数

・学 部

学部	学 科 (課 程)	募 集 人 員	入学者数	入 学 者							
				男	女	県 内	県 外	現 役	浪 人	大学検定	
人 文	人 文 学 科	95	95	26	69	61(48)	34(21)	84(62)	11(7)	0	
	語 学 文 学 科	95	95	14	81	62(57)	33(24)	87(78)	8(3)	0	
	計	190	190	40	150	123(105)	67(45)	171(140)	19(10)	0	
教 育	小学校教員養成課程	140	140	29	111	99(84)	41(27)	117(97)	23(14)	0	
	中学校教員養成課程	50	64	25	39	40(32)	24(7)	53(37)	11(2)	0	
	養護学校教員養成課程	20	17	1	16	12(12)	5(4)	16(16)	1(0)	0	
	幼稚園教員養成課程	30	26	0	26	22(22)	4(4)	25(25)	1(1)	0	
	計	240	247	55	192	173(150)	74(42)	211(173)	36(17)	0	
経 済	昼間主 コース	経 済 学 科	144	144	122	22	72(19)	72(3)	106(18)	38(4)	0
		経 営 学 科	124	124	84	40	53(25)	71(15)	96(39)	28(1)	0
		経 営 法 学 科	102	102	84	18	41(12)	61(6)	77(18)	25(0)	0
		計	370	370	290	80	166(56)	204(24)	279(75)	91(5)	0
	夜間主 コース	経 済 学 科	20	20	16	4	16(4)	4(0)	5(3)	15(1)	0
		経 営 学 科	20	20	15	5	18(5)	2(0)	7(2)	13(3)	1
		経 営 法 学 科	20	20	18	2	17(2)	3(0)	7(1)	13(1)	0
		計	60	60	49	11	51(11)	9(0)	19(6)	41(5)	1
理 学	数 学 科	43	45	33	12	16(6)	29(6)	36(11)	9(1)	0	
	物 理 学 科	47	35	35	33	2	10(1)	25(1)	20(2)	15(0)	1
			12	12	11	1	2(0)	10(1)	4(0)	8(1)	0
	化 学 科	43	43	23	20	18(12)	25(8)	26(16)	17(4)	1	
	生 物 学 科	35	35	20	15	11(9)	24(6)	22(11)	13(4)	0	
	地 球 科 学 科	32	32	28	4	7(3)	25(1)	18(4)	14(0)	0	
	計	200	202	148	54	64(31)	138(23)	126(44)	76(10)	2	
工 学	電 気 工 学 科	53	53	53	0	30(0)	23(0)	42(0)	11(0)	0	
	工 業 化 学 科	48	48	45	3	10(2)	38(1)	22(2)	26(1)	0	
	金 属 工 学 科	43	43	43	0	12(0)	31(0)	29(0)	14(0)	0	
	機 械 工 学 科	53	53	52	1	20(0)	33(1)	41(1)	12(0)	0	
	生 産 機 械 工 学 科	43	43	41	2	16(0)	27(2)	30(2)	13(0)	0	
	化 学 工 学 科	43	43	42	1	16(0)	27(1)	30(1)	13(0)	0	
	電 子 工 学 科	43	43	43	0	12(0)	31(0)	26(0)	17(0)	0	
	計	326	326	319	7	116(2)	210(5)	220(6)	106(1)	0	
合 計	1,386	1,395	901	494	693(55)	702(39)	1,026(446)	369(48)	3		

- 注 1.( )内は女子で内数である。  
 2.経済学部「夜間主コース」、理学部生物学科入学者の浪人の欄には社会人入学者を含む。  
 3.理学部物理学科の下段は定員一部留保第2次募集の人数を示す。  
 4.私費外国人留学生が人文学部語学文学科に1名、工学部電子工学科に2名(それぞれ男子)入学しているが、本表からは除いてある。

## ・大学院

区	分	募集人員	入学者数	入 学 者 内 訳			
				男	女	県 内	県 外
人 文 研 究 科 学 科	日 本 ・ 東 洋 文 化 専 攻	5	2	1	1	0(0)	2(1)
	西 洋 文 化 専 攻	5	2	1	1	2(1)	0(0)
	計	10	4	2	2	2(1)	2(1)
理 学 研 究 科	数 学 専 攻	8	2	2	0	1(0)	1(0)
	物 理 学 専 攻	8	10	10	0	3(0)	7(0)
	化 学 専 攻	10	9	8	1	6(1)	3(0)
	生 物 学 専 攻	8	6	5	1	2(1)	4(0)
	地 球 科 学 専 攻	8	5	5	0	0(0)	5(0)
	計	42	32	30	2	12(2)	20(0)
工 学 研 究 科	電 気 工 学 専 攻	10	8	8	0	3(0)	5(0)
	工 業 化 学 専 攻	10	9	9	0	5(0)	4(0)
	金 属 工 学 専 攻	8	9	9	0	4(0)	5(0)
	機 械 工 学 専 攻	10	7	7	0	4(0)	3(0)
	生 産 機 械 工 学 専 攻	8	4	4	0	3(0)	1(0)
	化 学 工 学 専 攻	8	7	7	0	7(0)	0(0)
	電 子 工 学 専 攻	8	12	12	0	8(0)	4(0)
	計	62	56	56	0	34(0)	22(0)
合 計	114	92	88	4	48(3)	44(1)	

(注) ( ) 内数字は女子で内数を示す。

## ・専攻科

区	分	募集人員	入学者数	入 学 者 内 訳			
				男	女	県 内	県 外
教 育 専 攻 科		5	1	0	1	1(1)	0(0)
経 済 学 専 攻 科		10	4	1	3	3(3)	1(0)
計		15	5	1	4	4(4)	1(0)

(注) ( ) 内数字は女子で内数を示す。

昭和62年度 学部等学生数 (62. 5. 1現在)

学部	学科(課程)	入学定員		総定員	一般教養課程						専門教育課程						合計				
		61入~	61入~		1年		2年		3年		4年		年次計		年次計		男	女	計		
					男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女				男	女
人文学部	人文学科	90	95	370	26	69	95	29	72	101	196	33	67	100	49	56	105	205	137	264	401
	語文学科	80	95	350	15	81	96	15	80	95	191	16	66	82	18	78	96	178	64	305	369
教育学部	計	170	190	720	41	150	191	44	152	196	387	49	133	182	67	134	201	383	201	569	770
	小学校教員養成課程	140	140	560	29	111	140	34	104	138	278	35	105	140	35	120	155	295	133	440	573
	中学校教員養成課程	50	50	200	25	39	64	23	27	27	114	23	30	53	17	27	44	97	88	123	211
	養護学校教員養成課程	20	20	80	1	16	17	2	19	21	38	4	16	20	1	20	21	41	8	71	79
	幼稚園教員養成課程	30	30	120	26	26	26	1	29	30	56	27	27	27	30	30	30	57	1	112	113
経済学部	計	240	240	960	55	192	247	60	179	239	486	62	178	240	53	197	250	490	230	746	976
	社会学科	120	144	528	122	22	144	138	19	157	301	105	12	117	135	12	147	264	500	65	565
	経営学科	120	124	488	84	40	124	111	32	143	267	99	23	122	98	32	130	252	392	127	519
	経営法学科	60	102	324	84	18	102	95	19	114	216	45	8	53	55	8	63	116	279	53	332
	小計	300	370	1,340	290	80	370	344	70	414	784	249	43	292	288	52	340	632	1,171	245	1,416
経済学部	夜間	20	40	40	16	4	20	15	3	18	38								31	7	38
	夜間	20	40	40	15	5	20	12	8	20	40								27	13	40
理学部	計	20	40	40	18	2	20	15	3	18	38								33	5	38
	小計	60	120	420	49	11	60	42	14	56	116								91	25	116
	数学	300	430	1,460	339	91	430	386	84	470	900	249	43	292	288	52	340	632	1,262	270	1,532
	物理学	40	43	166	33	12	45	35	16	51	96	57	15	72	12	11	23	95	137	54	191
	化学	40	47	174	44	3	47	50	4	54	101	49	5	54	35	3	38	92	178	15	193
工学部	計	40	43	166	23	20	43	29	20	49	92	38	15	53	14	19	33	86	104	74	178
	生物学	30	35	130	20	15	35	32	7	39	74	31	8	39	17	8	25	64	100	38	138
	地球科学	30	32	124	28	4	32	35	4	39	71	36	5	41	27	27	68	126	13	139	
	電気工学	180	200	760	148	54	202	181	51	232	434	211	48	259	105	41	146	405	645	194	839
	工業化学	50	53	206	53	3	53	58	1	59	112	57	7	57	36	9	56	113	224	1	225
工学部	計	45	48	186	45	3	48	53	4	57	105	44	7	51	42	9	51	102	184	23	207
	金属工学	40	43	166	43	1	43	55	1	55	98	45	45	45	45	45	45	90	188	188	188
	機械工学	50	53	206	52	1	53	63	63	63	116	76	122	76	46	46	46	122	237	1	238
	生産機械工学	40	43	166	41	2	43	56	56	56	99	45	45	45	41	41	41	86	183	2	185
	化学工学	40	43	166	42	1	43	52	5	57	100	47	2	49	39	1	40	89	180	9	189
電子工学	40	43	166	45	45	45	54	54	54	99	47	47	47	36	1	37	84	182	1	183	
合計	305	326	1,262	321	7	328	391	10	401	729	361	9	370	305	11	316	686	1,378	37	1,415	
合計	1,195	1,386	5,162	904	494	1,398	1,062	476	1,538	2,936	932	411	1,343	818	435	1,253	2,596	3,716	1,816	5,532	

## ・大学院

区 分	入学定員	総定員	1 年 次			2 年 次			合 計		
			男	女	計	男	女	計	男	女	計
人文科学研究科	10	20	2	2	4	8		8	10	2	12
理学研究科	42	84	30	2	32	25	2	27	55	4	59
工学研究科	62	124	56		56	51		51	107		107
計	114	228	88	4	92	84	2	86	172	6	178

## ・専攻科

区 分	入学定員	男	女	計
教育専攻科	5		1	1
経済学専攻科	10	1	3	4
計	15	1	4	5

## ・経営短期大学部

区 分	入学定員	総定員	1 年 次			2 年 次			3 年 次			合 計		
			男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
経営 学科	経営管理専攻	—	120	—	—	—	—	—	37	12	49	37	12	49
	経営・法律専攻	—	80	—	—	—	—	—	16	7	23	16	7	23
	計	—	200	—	—	—	—	—	53	19	72	53	19	72

## 昭和62年度聴講生，研究生

(昭和62年5月1日現在)

区 分	聴 講 生 講 生			研 究 生		
	男	女	計	男	女	計
人文学部	6	4	10	1	1	2
教育学部	1	4	5			
経済学部				1	2	3
理学部	1		1	2		2
工学部	2		2	1		1
教養部					2	
計	10	8	18	5	5	10
学部卒以上	10	7	17	5	5	10
上記以外		1	1			
計	10	8	18	5	5	10

編 集 富山大学庶務部庶務課  
富山市五福3190  
印刷所 あけぼの企画株式会社  
富山市住吉町1丁目5-18  
電話 (24) 1755(代)